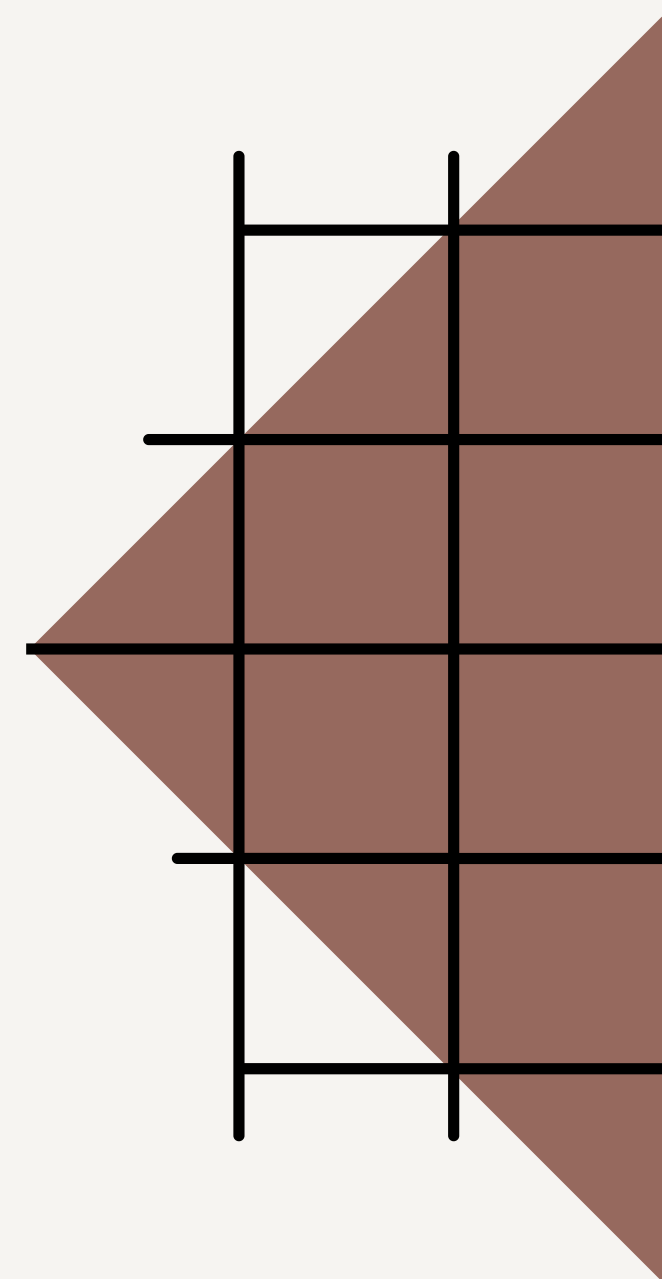
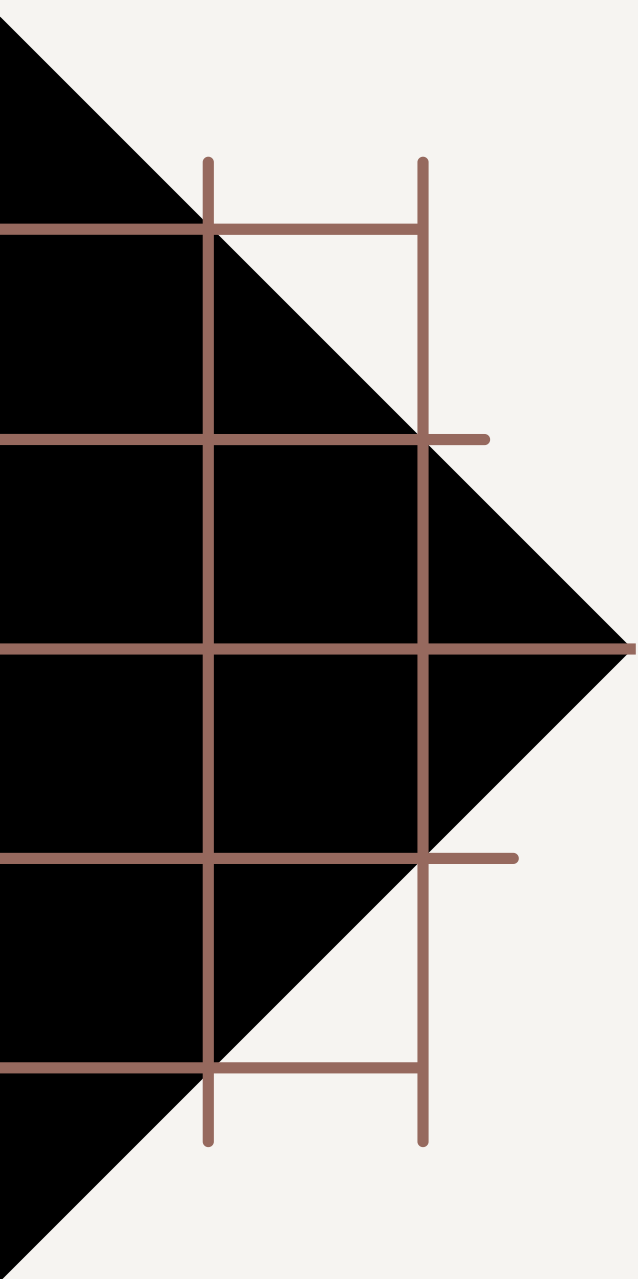


群馬県立大間々高等学校

令和5年度
みらい塾 校外活動報告



目次

1 はじめに

- (1) みどり市・大間々地域の現状とみらい塾の問題意識
- (2) 現在の地域活性化に向けた取組
(みどり市長との交流から学んだこと)

作成者

- …… 武井・住吉・小澤・河崎・橋本
- …… 武井・住吉・小澤・河崎・橋本

2 校外との交流で得た学び

- (1) 新渡戸文化中学校との交流活動
- (2) ユニセフハウス訪問
- (3) 常葉大学訪問
- (4) 日興美術株式会社訪問
- (5) 静岡県三島市訪問

作成者

- …… 長谷美・岩崎
- …… 鈴木・矢野
- …… 森田・中島
- …… 矢野・上野
- …… 和田・今泉

3 まとめと今後の展望

- (1) 大間々・みどり市の地域活性に向けた提言
- (2) 来年度のみらい塾の取組の方向性

作成者

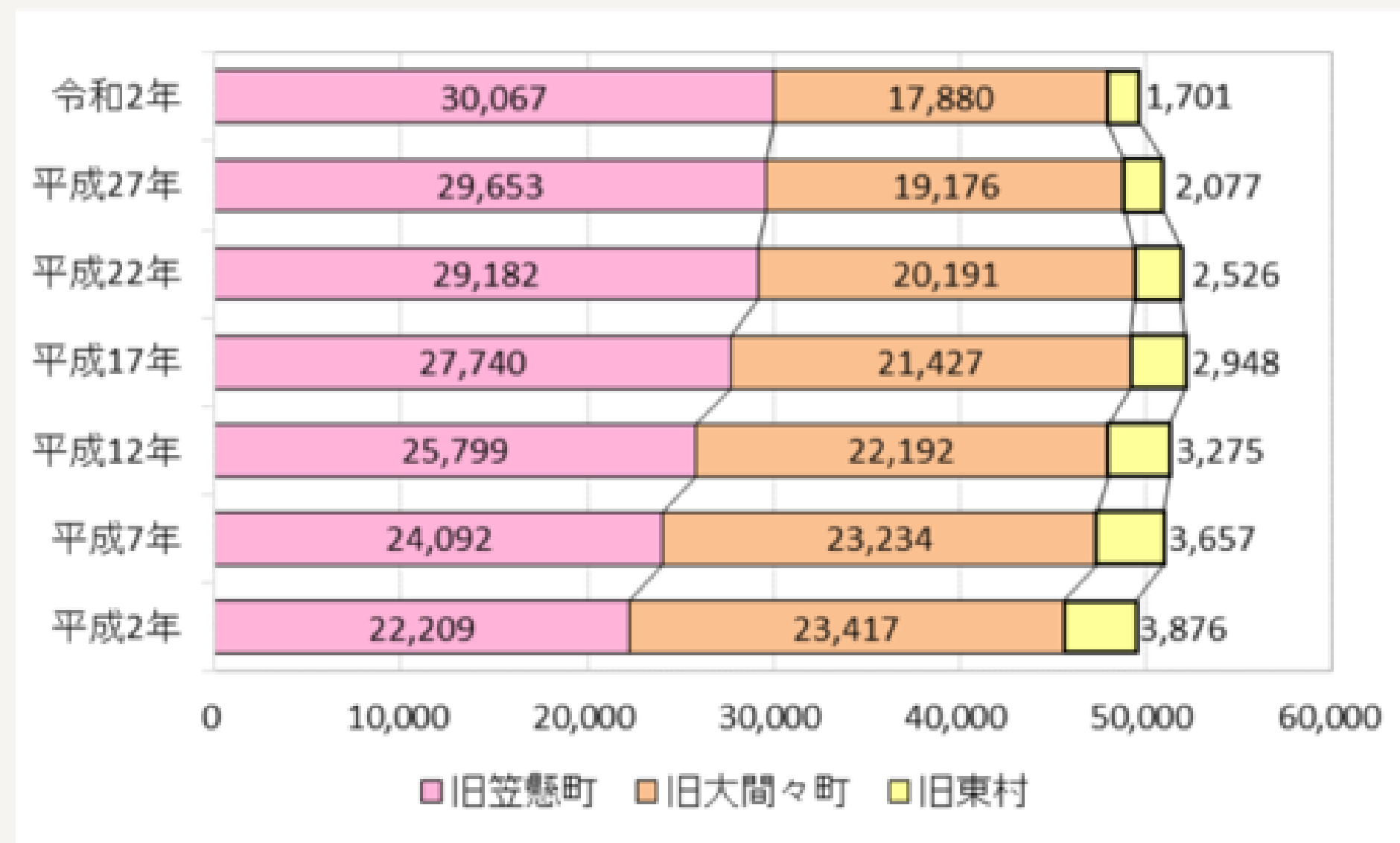
- …… 江原
- …… 江原

1-(1) みどり市・大間々地域の現状とみらい塾の問題意識

①人口の減少

大間々地域では、1985年をピークに人口が減少している。

現在みどり市は約5万人。うち大間々地域は、約1万7千人にまで減少。



みどり市の人口の推移 単位:人

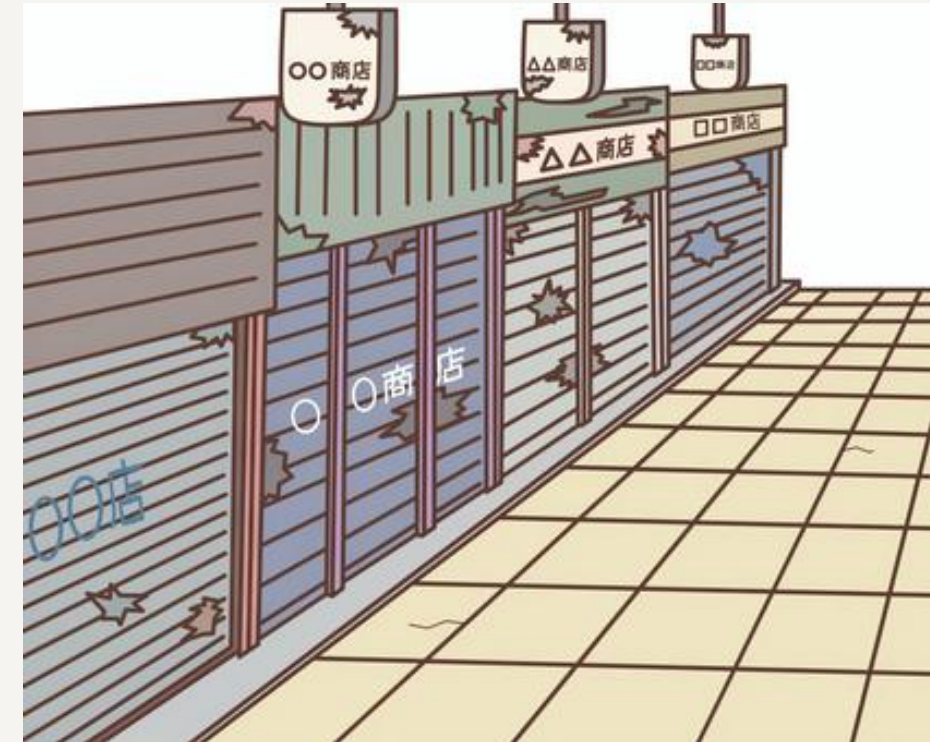
みどり市Webページより引用 (<https://www.city.midori.gunma.jp/shisei/1001661/1002955.html>)

1-(1) みどり市・大間々地域の現状とみらい塾の問題意識

②深刻化する地域の課題

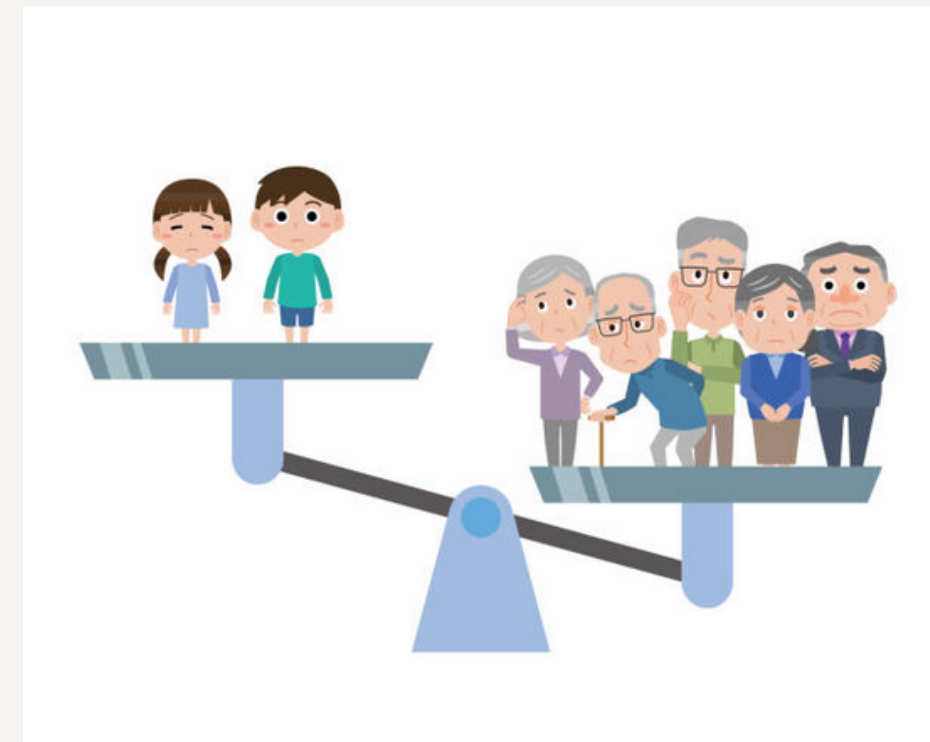
・シャッター街化が進行

商店街での空き店舗が目立ち、活気がなくなっている。これらの空き店舗の持ち主は住居として使っている方も多いため、市としても柔軟な活用が難しい。



・住民自治の維持が困難

働ける若者が不足し、地域の自治が困難になっている。伝統行事（大間々祇園祭など）の維持も難しくなったり、店舗が閉鎖することで生活が不便になってしまったりしている。



1-(1) みどり市・大間々地域の現状とみらい塾の問題意識

③みらい塾の問題意識

根本的な問題である人口減少を食い止めるために…

- ・ 大間々地域への移住者を増やすことが解決策になるのではないだろうか。
→移住者を増やすために、どんな手立てをとることができるのだろうか？
- ・ みどり市には様々な魅力があるので、発信の仕方を工夫できるのではないだろうか。
→地域の魅力の発信のしかたにはどのような工夫ができるのだろうか？

1-(2) 現在の地域活性化に向けた取組 (みどり市長との交流から学んだこと)

8月 早稲田大学大学院生・新島学園短期大学生による「**政策形成ワークショップ**」に
みらい塾が参加した際、みどり市長から移住に関するお話をうかがうことができました。

移住促進のためのみどり市の現在の取組は…

明確なビジョンをもち、どこの地域に住んでいる人に移住してもらいたいのか、
どんな世代に来てもらいたいのか、**目標の焦点化**をしています。

具体的には…

地域：東京都墨田区など、東武線沿線の都心の住民にPRする。

→大間々の赤城駅まで乗り換えなしで来ることができる。

世代：結婚したばかりの世代、子育て中の世帯にPRする。

→子どもとともに移住してもらうことで、将来的にも人口を維持できる。

そのために…

市長自ら浅草でアンテナショップを開催し、みどり市をPRした。



1-(2) 現在の地域活性化に向けた取組 (みどり市長との交流から学んだこと)

8月 早稲田大学大学院生・新島学園短期大学生による「**政策形成ワークショップ**」に
みらい塾が参加した際、みどり市長から移住に関するお話をうかがうことができました。

情報発信のためのみどり市の工夫は…

情報発信は「これをすれば」という何か特效薬みたいなものはない。

→様々な媒体で、多様にやるべきだと思っている。

- ・ "食"の情報発信に力を入れている。
- ・ みどり市内で人口が増えている笠懸地域の人々が、大間々・東の地域に観光にやってきてほしいと考え、どんな情報発信ができるか考えている。



2-(1) 新渡戸文化中学校との交流活動

①新渡戸文化中学校とは？

どんな学校？

- ・ 国際連盟の初代事務局次長として活躍した新渡戸稲造博士が初代校長。
- ・ 毎週水曜日が「クロスカリキュラムの日」。この日は、教員が教えるインプット中心の授業は一切行われず、生徒たちは自分の好きなことや興味があることについて、生徒主体でプロジェクトを立ち上げ、1日中没頭できる。

プロジェクト活動の一例

FSCAwardにおいて、NiToBe CoLoRs が『日本初の FSC認証用紙使用の国産おりがみ』を開発。その制作ストーリーとFSC用紙の大切さを絶滅動物を通して伝える活動が評価され、中学生部門の最優秀賞を受賞。



どこにある？

東京都中野区本町6丁目
38-1



森林の生物多様性を守り、地域社会や先住民族、労働者の権利を守りながら適切に生産された製品を消費者に届けるためのマーク



2-(1) 新渡戸文化中学校との交流活動

②今年度の交流活動の日程

● 第1回 群馬県桐生市周辺

11月14日

10：15～桐生が岡動物園
11：50～ベーカリーカフェ レンガ（昼食）
13：00～桐生市散策
14：30～織物参考館“紫”（染色体験・見学）
17：00～ペーパームーン（夕食）

● 第2回 東京都中野区周辺

2月24日

10：00～ユニセフハウス訪問
14：00～新渡戸文化学園見学
15：00～中野区散策

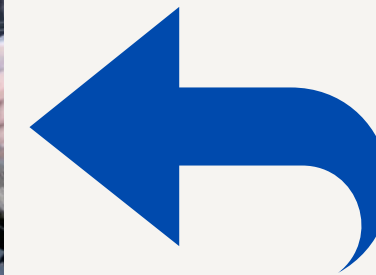


2-(1) 新渡戸文化中学校との交流活動

③桐生市散策での学び

新渡戸中の生徒から「空気がおいしい」「空が広い」「星が綺麗」などの声が聞こえ、東京とは違った普段、見慣れない自然豊かな町並みに興味を持っていました。また、みらい塾生は、建物が密集していて、整備された自然がある東京に住む人の視点の声を聞けました。

そのことによって、みらい塾生だけでは気付けなかった、ありのままの自然が身近にあることや、織物工場ののこぎり屋根が残っていることなどの地域の魅力を発見することが出来ました。この発見した魅力をどう広めていくのかが今後の課題だと思いました。



桐生の織物工場の見学と染色の工程体験を通して伝統に触れました。

一緒に藍染体験をしました！



2-(1) 新渡戸文化中学校との交流活動

④中野区散策での学び

レンガ坂をキレイに！



Before

- ・ 放置自転車が目立つ・電線ばかりで空が見えない・でこぼこの坂道



After

こんな商店街にしたい：地元の皆で大事にしていけるような温かみのある商店街
ワクワクする坂道



- ・ ヨーロッパの裏路地をイメージ
- ・ でこぼこの坂道に本物のレンガを敷いた
- ・ 夜はライトアップ
- ・ シャッターがしまっているにも温かみがある**シャッターアート**

レンガ坂商店街会長の岡田様からのお話から学んだこと

住む人や地主さん、お客さんに理解を得られるように、最初に地元の人からの要望をリサーチすること。

→大間々の町づくりでも活かしていきたい！

2-(1) 新渡戸文化中学校との交流活動

④中野区散策での学び

レンガ坂のシャッターアートとは？

- ・ 店舗10カ所のシャッターに「光の情景画家」として知られている人気のアーティスト笹倉鉄平さんのアートを施している。
- ・ 飲食で賑わう夜だけでなく、朝の通勤通学時、昼のランチやお散歩など、24時間四季折々のタイミングで楽しめる。

★大間々の商店街にはシャッターが閉まっている店も多い。
シャッターアートを取り入れて、お店だけではなく商店街
そのものの魅力を高められるのではないかな。



2-(1) 新渡戸文化中学校との交流活動

⑤交流活動を通して気付いた大間々地域の魅力&魅力を活かすために

東京は再開発が進み新しい建物が増えている中で、大間々・桐生にはのこぎり屋根を用いた建物や蔵などの歴史的建造物に価値を見だし、リノベーションを行い新たな使い方をする（ベーカリーカフェ レンガ）などの工夫により現在でも残っている。東京から見たら、町並みに沢山の歴史的建造物が残っていることが珍しいので、とても魅力的！

東京

建物が密集していたり、騒音などで、ゆとりを持って生活できないことも。



大間々・桐生

ありのままの自然が身近にあり、心が休まり、ゆとりを持って生活できる。



地域活性化への手がかかり

1. そのものの価値を高める

地域に残る歴史的建造物や自然の美しさを活かし、価値を高めるようもっとブランディングする。

2. 情報発信をする

地域の魅力を広く伝え、多くの人々に知ってもらうための観光に関する情報発信を行う。

★今回のスタディーツアーで学んだことを

「みどり市や大間々に移住する人を増やし、地域活性化につなげる」という課題解決の手がかりにしたい。

2-(2) ユニセフハウス訪問

①ユニセフハウスについて

世界の子どもたちとの出会いを通じて、
子どもたちが生まれながらにもつ「おなじ」と、
きびしい現実が伝える「ちがい」を知り、
世界の課題などを学ぶ展示施設です。



● ユニセフハウスの特長！

- ・ 私たちが生きる世界の現実を、実際の子どもたちの映像やデータで学ぶことができる。
また、紛争地の教室や発展途上国の保健センターを再現した展示で現地の様子を体験し、
自分事として考えることができる。
- ・ 展示を通して世界の子どもの現状を学び、どんな世界にしなければいけないのか、
私たちにできることは何か、**すべての子どもになにが必要か**を自分なりに考えることができる。

2-(2) ユニセフハウス訪問

②学んだこと

『**児童労働は、他の様々な問題を引き起こす**』 —水を運ぶ子ども達—

1日に必要な水の量は、
1人あたり50L

日本人は、1人あたり200L

最貧国の子供の中には、往復8時間かけて家族で使う水（5L程度）を汲む子がいる。

こうした子供は、学校に通うことができず**教育を受ける機会を失っている**。

兄は学校に通うことができるので、水汲みから帰ってきて、家での仕事の合間に教えてもらっている。（家事に費やす時間や男女の教育格差など、**男女平等ではない**）

また、その水も茶色く濁った地表水（水たまり）なため、**衛生的ではなく命の危機**がある。
食事も満足に取る時間も、機会もなく1日1食の生活を送っている。（**飢餓問題**）

アイシャ
Ayshaちゃん

エチオピアに住む、13歳



- 6：30 ラクダを連れて出発
- 10：30 水汲み場に到着
（水を飲み、洗濯物を洗い、家で使う水を汲む）
- 11：00 出発ラクダには乗れず、歩いて帰る
- 16：00 お家に到着 **往復合わせて8時間**

私たちにできること

安全ではない水を手に入れるために8時間かかるアイシャちゃんと、簡単に安全な水を手に入れることができ、贅沢に水を使っている私たち。他国の状況にも目を向け、**自身の生活を見直していく必要がある**。



2-(2) ユニセフハウス訪問

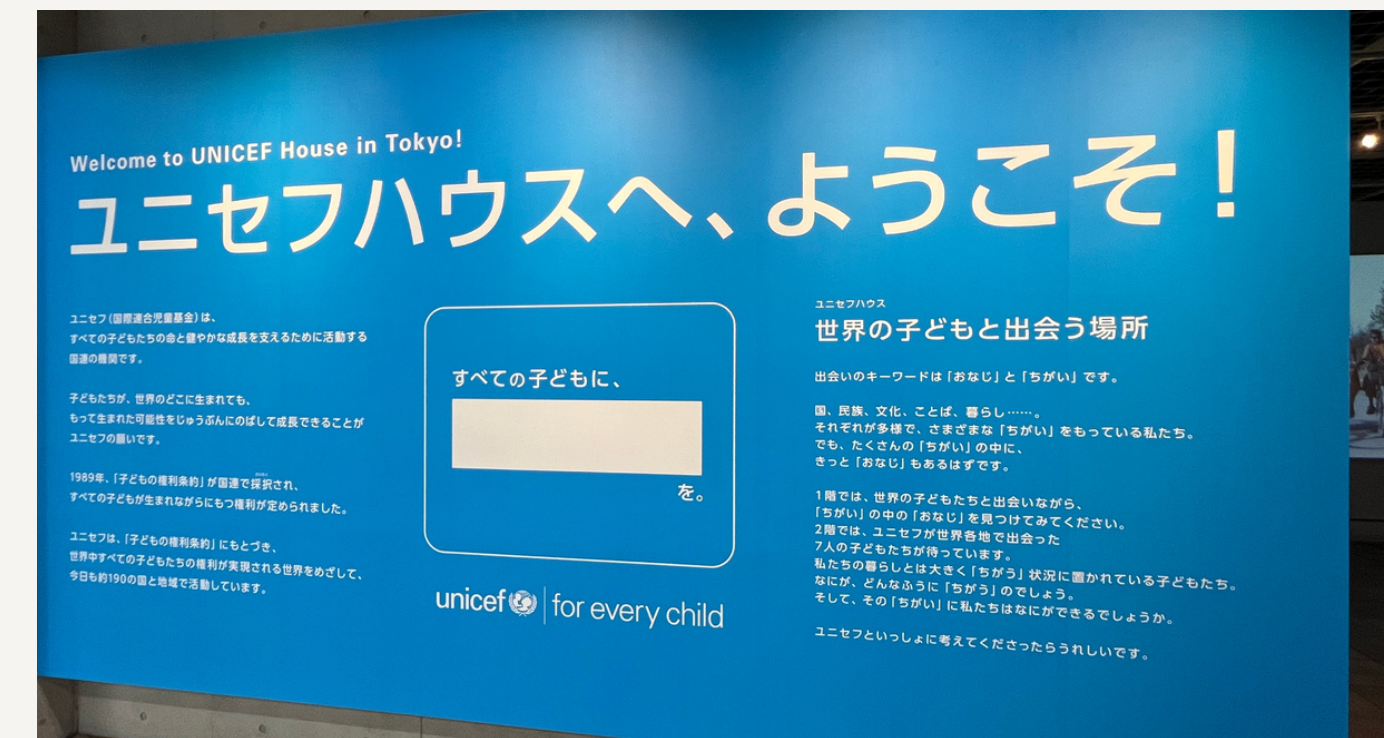
③考えたこと



訪問を通して、
具体的なアクションが必要だ
と考えました。

誰しも平和な暮らしができるわけではなく、衛生面が整っていないところ、常に危険と隣り合わせなところ、学校に通いたくても通えず、労働で1日が終わるところ……。私達のような暮らしが当たり前ではないことがわかりました。

私達に個人にできることは少しでも多く募金をすること。ただし、みらい塾としてできることは、世界ではこんなことが起こっている、当たり前の権利がなされていないということをこうした活動報告書や本校生徒・近隣中学校への講義などで世の中に広めていくことだと考えました。そのために私達みらい塾は、地域だけでなく世界の問題にも目を向けて活動していきたいと思いました。



2-(3) 常葉大学訪問

①大学の紹介

12月 移住促進についての事例を調査するため、移住促進に積極的に取り組んでいる**常葉大学**
経営学部、山田雅敏准教授のゼミを訪問しました。

どんな大学？

常葉大学は静岡県内最大規模を誇る総合大学。総合大学でありながら少人数制を取っており、知徳兼備、未来志向、地域貢献を教育理念にしている。

経営学部経営学科の山田ゼミでは、**オクシズ(静岡市の中山間地域)への移住増加策**を検討していた。



今回訪問した

「草薙キャンパス」

静岡県静岡市駿河区弥生町6-1

2-(3) 常葉大学訪問

②山田ゼミのオクシズ移住増加策のここがすごい！

- ・ 移住者向けの生活ガイドブックの作成

観光客向けではなく、ライフラインからゴミ出しの日、病院や学校の場所など**生活に特化したガイドブック**を学生が主導して作成していた。絶景や観光スポットの盛り上げよりも生活に何が必要かを優先し、移住者目線で必要な情報をまとめることは移住者増加に重要だと思った。

このガイドブックを東京の移住支援センターなどで配布しているとのことだった。



ほかにも…

- ・ 梅ヶ島地区に移住者向けのお試し住宅を使った**移住体験モデルプラン**の作成
- ・ オクシズを巡る**ハイキングコース**の設定

など、現地の人のアンケートなどをもとにオクシズの魅力をPRする様々な取組をしていた！

2-(3) 常葉大学訪問

③葵区役所 川森様のお話から得た移住者増加のヒント

- ・首都圏と新幹線でつながる**アクセス**の魅力



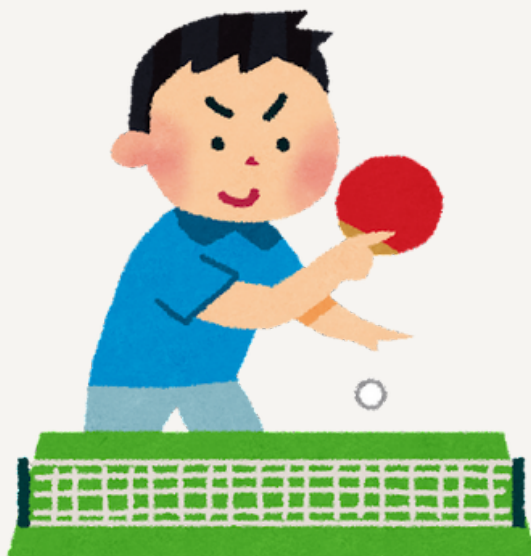
田舎暮らしをしてみたい。
けど、失敗したら…



「**合わなかったら都会へ戻れる**」環境が大切！



- ・**スポーツ**を活かした地域活性



卓球のTリーグのチームができた

→葵区内で卓球大会を開催し、さらにマルシェも企画した

スポーツを通して人が
集まる場をつくる！

2-(3) 常葉大学訪問

④古民家カフェ「**オクシズベース**」の富田様のお話から得た情報発信のヒント

- ・ **情報発信を自分たちだけでやろうとしないこと**

現代はSNSで誰でも情報を発信できる時代。だからこそ、メディアへの発信を自分たちだけでやろうとしないで、来てくれた観光客の方に発信を手伝ってもらうこともできる！

口コミをうまく使おう！！

- ・ **特定の人にささる、とがった情報発信があってもよい**

「わさびだけ」「キャンプだけ」など、1つのテーマにしぼった特集などを組むと、その情報に興味のある人を動かしやすい！

- ・ **数値で考えること**

情報を受け取った1000人のうち、1人動かせればよい。
→市の中心部や都心など、人が集まる場所で情報を発信すれば、ささる人は必ずいる。人口70万の場所なら、700人にオクシズへ来てもらえる！

どの方も、とても親切に地域活性のコツ、情報発信のコツを教えてくださいました！ありがとうございました。



2-(3) 常葉大学訪問

⑤学んだこと・考えたこと・得たヒント

みどり市で実際に配布されているパンフレットについて、大間々はどんなことを重点に書かれているか、何をPRする目的で作られたのかを見直し、オクシズのガイドブックと見比べて修正点を洗い出すことができる。

IDEA!!

SNSでテーマ特化型の情報発信！

「あまり知られていない地域の食だけ」
「地元民でもあまり知らないマイナー絶景」など

IDEA!!

大間々周辺で生活している高校生ならではの
目線からのガイドブックがあってもいい！

静岡のように、すぐには
都会に戻れないからこそ…

観光客や移住希望者が大間々やみどり市での暮らしを体験できるような施設やイベントが、もっともっとあってもよいのではないかな。

IDEA!!

キャンプ場を利用し、山中の暮らし体験のようなものを開催する！

IDEA!!

空き家をお試し暮らし用に改装し、移住促進
と空き家問題をともに解決してしまおう。

2-(4) 日興美術株式会社訪問

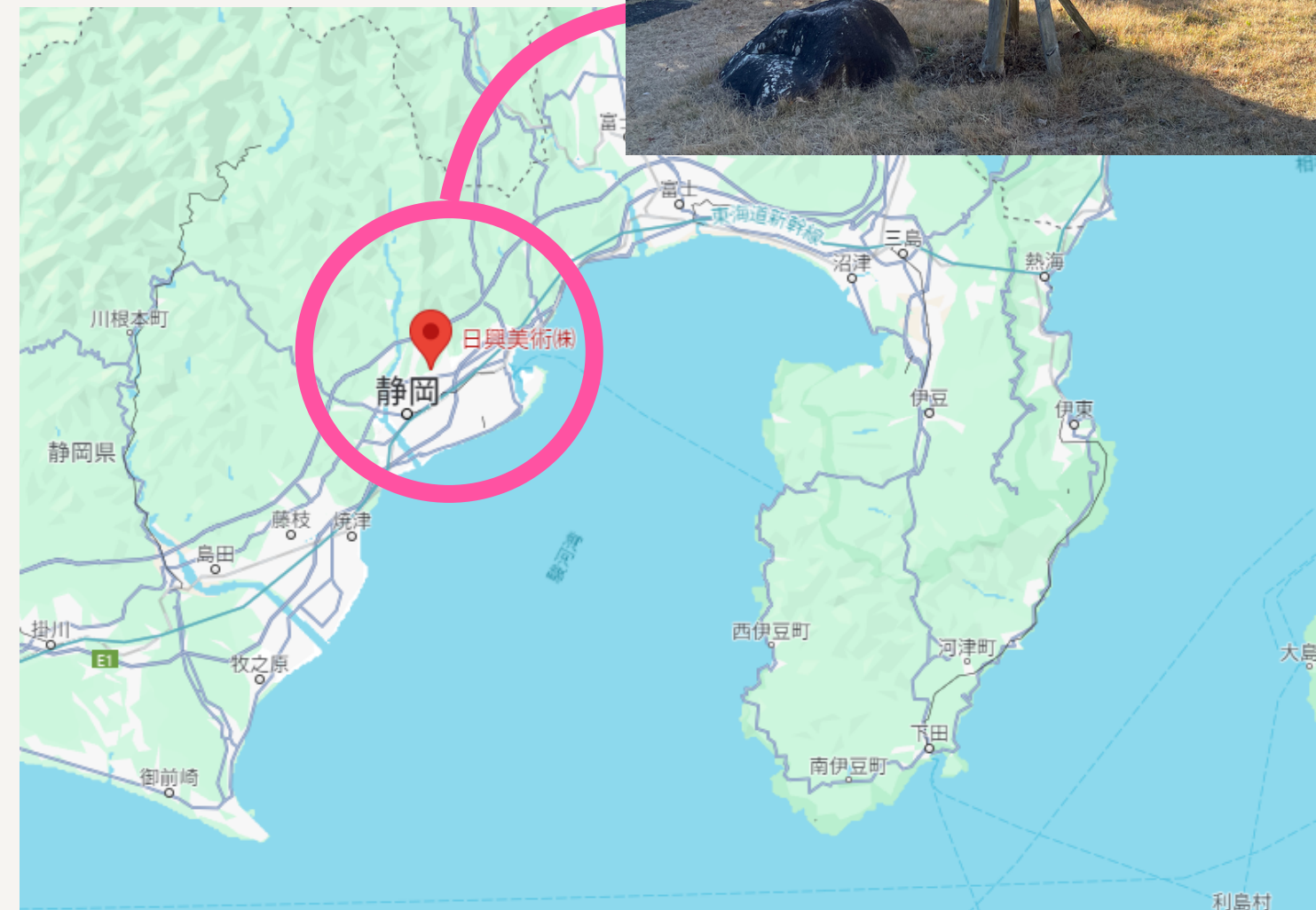
①企業の紹介

日興美術株式会社

商品の企画からデザイン、制作や印刷など幅広い活動を行っている会社。

卵殻を再利用した名刺やファイルなど、環境にやさしいものづくりを目指している。それだけでなく、2023年には駿河湾フェリーと連携し静岡・伊豆周遊スタンプラリーを実施したり、地域の小学校にSDGsについて易しく解説する本を配布したりと**地域・社会貢献活動**にも力を入れている。

外観もとってもキレイでした！！



2-(4) 日興美術株式会社訪問

②ここがすごい！

・環境にやさしいものづくり

日興美術株式会社では、FSC認証を得た素材や石灰石を主原料とした「LIMEX」という素材など、印刷をするための紙素材に配慮をするほか、環境に優しいものづくりの姿勢に感動しました。



↑ ペットボトルのキャップを100%使用したファイル



営業一課の品川様にお話をうかがいました！

Q:SDGsに取り組み始めたきっかけは？

A:静岡市がSDGs未来都市に選ばれたのがきっかけです。

Q:大切なことは？

A:企業もサステナブルであるべきだと思っています。



2-(4) 日興美術株式会社訪問

②ここがすごい！

- ・ 社会貢献活動と利潤の両立
 - ・ 自社にも他社にも利益を生み出す考え方
- 企業では利潤を得ることをするのが当たり前だが、**日興美術では地域貢献活動が企業の利益にもつながっている**のだとか。そして、同じ価値観をもつ人達との関わりを深めることで、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の、まさに「三方よし」になっている！

ほかにも…

- ・ 社内のアイデア出しゲームのしかたなど教えてもらいました。

たとえ直接利益にならないことをしていたとしても、**地域・社会に貢献する活動にチャレンジ**することで…



人との**つながり**が生まれる

そのつながりが、会社にとっての新たな**ビジネスチャンス**になる！



2-(4) 日興美術株式会社訪問

③学んだこと・考えたこと

- 何よりパートナーシップを大切にすることを教わった。SDGs活動に積極的な姿勢をもつことは、**地域の方々や企業の方々とのつながりを深めたり、広げたりしていく可能性を広げる**。それが、みらい塾自身もサステナブルになることにつながり、地域を活性化するための新たなアイデアやチャンスを得られるのだと思った。
- アイデア出しゲームは様々な商品の開発につながっていた。みらい塾もまねしたい！

日興美術株式会社の皆様、
ありがとうございました！



2-(5) 静岡県三島市訪問

①市の紹介

どんなまち？

自然豊かで首都圏からもアクセスしやすく、「**水の都**」として地域の人々から慕われています。**遊・食・住が揃うファミリータウン**で、子連れの家族にとっても人気の市となっています。



本当に住みやすい街大賞
2021 in 静岡

ひろこうじ
三島広小路

第 **1** 位

どこにある？



2-(5) 静岡県三島市訪問

②ここがすごい！

#三島市移住 で検索を

- 毎年**三島市移住アンバサダー**を依頼し、三島市の魅力をSNSを通じて発信してもらっている。
- 有志の方が地域活性化を目指して設立した「**みしま未来研究所**」という施設がすごい！三島市のこと大好きな、様々なバックグラウンドをもっている人々が集まり、地域の人との交流拠点となっている。
- **自然環境と現代社会の両立**ができている。実際に街を回ってみると、公園には緑があふれていたり、民家のすぐそばに川があったり、道路や歩道にはお花がたくさんあったりする様子を体感できた。



2-(5) 静岡県三島市訪問

③学んだこと・考えたこと・得たヒント

大間々も、緑や川などの自然環境と交通手段はある程度整っている。

- ・ 今ある自然環境の活かし方を考える
 - ・ 移住者と地元の人をつなぐ未来研究所のような空間をつくる
- など…

にもかかわらず…

- ・ シャッター街が目立つ
- ・ 地元の人々と協力する場面が少ない
- ・ 子供が遊べる空間が少ない

三島を手本として、足りない部分を補うことができるのでは？

三島市役所の方にお話を伺いました！

その後、町の案内までしていただきました。
ありがとうございました！！

みしま未来研究所で
インタビューしている様子です



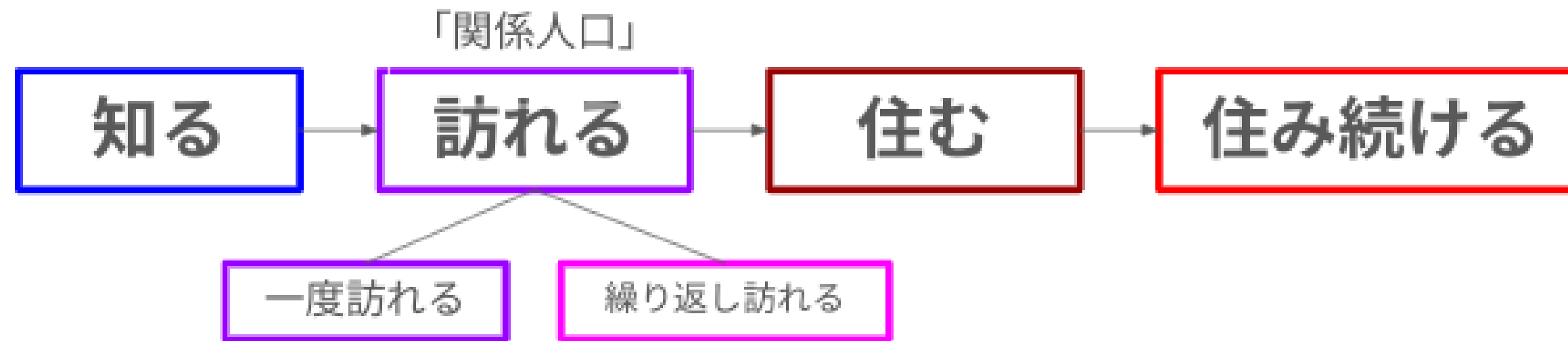
3-(1) 大間々・みどり市の地域活性に向けた提言

①まずは「大間々を知ってもらう」ことが大事！

今年度の校外活動を踏まえて、移住者増加のためには大間々やみどり市を「知ってもらう」ことが関係人口(その地域を頻繁に訪れてくれる人)の増加、ひいては移住者の増加につながると考えました。静岡へのスタディツアーの際に葵区役所の川森様から教えていただいたことをもとに、**移住者増加までのステップ**を下のよう整理しました。

移住までのSTEP

静岡市葵区役所 川森様の講義をもとに



3-(1) 大間々・みどり市の地域活性に向けた提言

②地域を知ってもらうためのアイデアまとめ

今年度の活動を踏まえて、移住者を増やすために大間々やみどり市を知ってもらうことが人口減少の課題解決の第一歩となるため、下のような**情報発信のアイデア**が考えられます。

誰に向けて発信するか？

地域では人口の多い地域、世帯では夫婦二世帯・子育て世帯に向けた発信をすべきだ。都心の移住希望者にも情報が届くようにしたい。

東京のふるさと回帰センターにパンフレットなどを持っていくのもアリか？

どうやって発信するか？

アプリ制作やInstagramやXなどSNSの公式アカウント作成など、SNSやインターネットをさらに有効活用してはどうか。

みどり市だけでなく、来てくれた観光客など関係人口の方々に地域のことを発信してもらえそうな仕掛けをつくりたい。

どんな情報を発信するか？

テーマ特化型の発信にチャレンジしてもよいのでは。ただ、高校生や住民、観光客など様々な目線からの発信とも両立していきたい。

特に来ていただいた観光客の方々の視点での情報発信は必要。それによって魅力の再確認・新発見もできる。

3-(1) 大間々・みどり市の地域活性に向けた提言

③地域の魅力をアップさせるためのアイデアまとめ

みどりみらいツーリズムの改善・実現

一昨年にみらい塾が提案した「みどりみらいツーリズム」は、地域資源を活かし、地域の魅力をあげる良いプランだと改めて感じます。このプランの改善と実現を提案します。

新規体験イベントの考案

オクシズのように自然体験ができるキャンプツアーや移住希望者が一時的に住むことのできる施設の整備などを提案します。大間々地区や東地区で進めてみてはどうでしょうか。

シャッター街や空き家の活用

東京のレンガ坂のように、シャッターアートで殺風景な雰囲気を変えてみてはどうでしょうか。また、空き店舗を使って新しく事業をはじめやすい環境を整えることも大切です。

3-(1) 大間々・みどり市の地域活性に向けた提言

④住んでいる人の意見を丁寧に聴く

みどり市の課題の人口減少の課題を解決するための移住者を増やす取組を進めることはとても大事です。

ですが、**今住んでいる人の考えを聞いたり、今ある地域の環境を大切にしたりすることも必要だ**ということを今回のスタディツアーを通して再確認することができました。地元の人が大間々の地域をどのようにしていきたいのか、私たち高校生だけの独りよがりではなく、意見をしっかりと聴き、様々なアクションに反映させていきたいです。



親しみやすい佇まいや落ち着いた雰囲気は残したいなあ...

今年度とったアンケートでは、こんな意見も地元の方からありました。

3-(2) 来年度のみらい塾の取組の方向性

● まずは大間々やみどり市を「知ってもらおう」ために活動します。

生活に役立つガイドブックや観光客へ向けた食べ物マップ、イベントカレンダーなどのパンフレット作成をしていきたいです。パンフレットは、県外の人にも知ってもらえるように色々なところに置かせてもらったり、配りに行ったりします。また高校生目線でのSNS活用方法を市に提案するなど、今までできなかった広報活動をしていきたいです。

● 地元の人との関係を深め、積極的に「声」を聴きます。

積極的に地域のイベント運営に参加するなどして、地域の人たちの意見を改めてしっかり聞いてみたいです。今ある雰囲気を残しつつ、シャッターアートのような新しいことにどうやって挑戦できるか、「声」をよく聴きながら市や商工会などの関連団体に提案していきたいと考えています。



今年度のみらい塾校外活動にご協力いただいた皆様

新渡戸文化中学校 高橋先生・川島先生・生徒の皆様

JTB 玉井様

常葉大学経営学部 山田先生・山田ゼミの皆様

オクシズベース 富田様

静岡市葵区役所 川森様

日興美術株式会社 品川様

三島市役所 白坂様・職員の皆様

ユニセフハウス 職員の皆様

みどり市長 須藤昭男様、市役所地域創生課・社会福祉課の皆様

早稲田大学大学院・新島学園短期大学部政策形成ワークショップの皆様

足利屋 松崎様（三方良しの会 会長）

新宇商店の皆様

ありがとうございました！